

ソフトバンクグループ株式会社 2023 年 3 月期第 2 四半期決算
投資家向け説明会質疑応答録

開催日:2022 年 11 月 14 日(月)

登壇者:取締役 専務執行役員、CFO 兼 CISO、財務統括 兼 管理統括 後藤 芳光

常務執行役員、経理統括 君和田 和子

CSusO、財務統括 IR 部長 上利 陽太郎

財務統括 キャピタルマーケット部長 川村 玲子

SB Investment Advisers, Managing Partner CFO, Navneet Govil

Arm, VP Investor Relations, Ian Thornton

質疑応答

質問者 1

Q1:まず財務編の 7 ページになりますが、かなり資金の余裕度が出てきている状況かと思えます。例えば向こう 6 カ月ないし 12 カ月を見た場合でも子会社の配当、それから Arm を代表とする IPO 群などがあるかと思えます。かなり財務に余裕度が出てきたような状況下で、今のマネジメントの皆さんが自己株式の取得、社債の買入などに関して、従来以上により積極的になれるような考え方、何か変化が出てきているかについて教えていただけますでしょうか。

A1:

(後藤) ありがとうございます。従来から投資会社としての資金使途は三つあります。一つは事業資金。事業資金というのは投資資金であり、新規投資に充てる資金です。あと二つは、われわれの 2 大ステークホルダーであります株主の皆さん、債権者・クレジット投資家の皆さんそれぞれへの還元です。株主還元は自社株買いを中心とする他、配当などの手段がありますし、クレジットの投資家、債権者の皆さんへの還元は、財務改善をすることでその負債性商品の価格が上昇していくことが一番の貢献になるだろうと思っております。

現時点で新規投資を当面控えるわけですから、手元資金の使途は、株主還元もしくは債権者への還元すなわち財務改善のどちらか、もしくは両方を実現するという事です。この両方の還元をどのように行っていくかについて、またその比率をどう考えていくか、これらを役員会では従来どおり議論していきます。それぞれの還元は、上場企業にとって最重要なテーマの一つだと思いますので、現時点の環境を含め役員会でのしっかりとした議論を経て、意思決定をしていきたいと思っております。

Q2:

2 問目は財務編の 17 ページ、アリババ株式を活用したアセットバックファイナンスに関する事です。例えば先渡売買契約という性質上、株価のアップサイドはなかなか取れませんが、ダウンサイドリスクはむしろプラスになるという性質を考慮しますと、今後、現物による決済の可能性は従来に比べると高まっているのではないかと思います。このあたりについてもマネジメントの皆さんの考え方に何か変化が出てきているかどうか、教えていただけますでしょうか。

か。

A2:

(後藤) 実際に現物で決済するかについては、株価等への影響を考えまして、直接的なコメントは控えさせていただきます。ただ、ご指摘のとおり先物での取引はダウンサイドをプロテクトできるわけです。その意味からは、株価が下落局面にあれば当然そのヘッジ効果は非常に大きな価値になるわけです。一方でアリババという会社に対して弊社がその将来性をどう考えるかということも重要なテーマだろうと思っています。期限の利益を持って考える余裕がありますので、そこについてはしっかりと検討していきたいと思っています。

質問者 1

ありがとうございました。

質問者 2

Q1:

1 点目は財務編の 23 ページと 25 ページにあります、今残っているアリババ株を活用した先渡売買契約なのですが、負債サイド 2 兆 8,000 億で、資産から控除が 1 兆 4,000 億ということですから、明らかに今の状況だと現物で返済した方が 1 兆 4,000 億得だと思えるのですが、この返済スケジュールは、どういう形で来るのか。今後半年ぐらいにどっと来るのか、1 年先ぐらいにどっと来るのか。また、9 月にも新しく 79 億ドルのフォワード取引を締結されていますが、これはどういう目的で行っていらっしゃるのか。これらについてお伺いしたいと思います。

A1:

(後藤) 先渡売買契約の返済スケジュールは非開示でして、コメントは控えさせていただきます。申し訳ございません。またわれわれは、常に資産の流動性の状況など見ながら、余裕度を見た調達を前倒しで行うというポリシーで行っておりますが、9 月に新規に 79 億ドルの調達を行っているのは、その一環です。

Q2:

2 点目は単体のキャッシュポジションについてです。さきほどの財務編の 7 ページのところでは、かなり高い水準になっています。確認ですが、9 月 29 日のプレスリリースで汐留 9 号とか SBC キャピタルから 5,800 億の配当を受け取るということが出ています。これはまだ受け取ってなくて、今後プラス 6,000 億となるのか、また 9 月 15 日のプレスリリースでは逆に単体の方が汐留 17 号に 3 兆 2,000 億でアリババ株を譲渡したと出ていますが、この 3 兆 2,000 億は 9 月末に入っているのか確認させてください。また先ほどの説明では、既に起こった決済で、税金は SBG 単体で 2,000 億ぐらいと試算されているということですが、これは今後支払いで 2,000 億消えていくということなのか、単体のキャッシュポジションの公表ベースでどうなっているかをご説明ください。

A2:

(川村) キャピタルマーケット部の川村です。単体の取引に関しては、配当のやり取りやおっしゃったような取引に関しては、全てがキャッシュの取引ではなくグループ間ローン等もありまして、その相殺等もありますので必ずしも全てがキャッシュとして入ってくるわけではありません。

質問者 2

分かりました。既に起こっている 9 月 15 日発表の 3 兆 2000 億というのは、返済も調達もあるにせよ、この 9 月末の財務編 7 ページのキャッシュ(3 兆 5000 億)に入っているという理解でよろしいでしょうか。

(後藤) 今ご指摘の部分も含めて、取引自体全て完了しておりますので、今回の決算の数値の中には反映されています。

(君和田) タックスのキャッシュアウトにつきましては、汐留 9 号の方は 11 月に払います。SBG の方は、これは年間締めてみないと分かりませんので、支払いの生じる場合には来年の 5 月末に払うということになります。

質問者 3

Q1:

経理編 15 ページの T モバイルの株式についてです。現状株価が 150 ドル近辺まで上昇していますので、改めて確認させてください。本件について 45 日間 150 ドル以上を達成したら、速やかに御社は権利を獲得できるのでしょうか。また、そうしたとき、株価はどの日のどのときのベースで決まるのでしょうか。受け取られる 48.8 百万株のロックアップピリオドはどのような決まりになっているのでしょうか。これらについて教えてください。

(君和田) 45 日間 VWAP で条件を達成したら、これはすぐにもらえます。

質問者 3

そうすると株価も例えばその平均株価、45 日間のときで適用されると。145 ドルか、そんなに離れているかどうかという議論はありますが、という理解でよろしいですね。

(上利) 価値は、これはもらえる株数が決まっているので、45 日間の VWAP が 150 ドルを超えると決まった株数がもらえます。それが 150 ドルで計算すると約 7.5billion の価値の株がもらえるのご理解いただければと思います。

Q2: 二つ目の質問は、現在自社株買いの枠が設定されていませんが、これまでのペースと同規模の自社株買いを仮にするとしたら、どういうものが資金源として見えているのでしょうか。

A2:

(後藤) 自社株買いの資金源という言い方に正しい回答かどうか分かりませんが、私どもの手元流動性は現在 4 兆円内外の流動性がありますし、また、配当可能利益についても、手元ではその準備は既にできています。ただ、われわれがどのタイミングでどういう意思決定をしていくかについては、われわれの裁量を頂くことをお許しいただきたいと思います。

一方で、この 5 年間のわれわれの累積の自社株買いの金額は 5 兆円に上ります。結果的に均せば 1 年間 1 兆円ずつやってきている会社です。これだけ株主還元について真剣に考えて、しかも実行してきている会社はそう多くないだろうと自負しておりますし、われわれもこのようなステークホルダー重視のスタンスは今後もしっかり継続していく予定です。ステークホルダーというのは株主と債権者両方ですから、両方に対して常に十分な配慮をした還元をしていくことが何よりも重要だろうと思っています。

質問者 3

ありがとうございました。

質問者 4

Q1:

最初は Navneet さんをお願いします。Vision Fund のフェアバリューはおよそ 1,450 億ドルとなっています。IPO 市場は今すごく厳しい状況だと思えますが、ポートフォリオの資金化に何年ぐらいかかるのでしょうか。また、IPO 市場が実際にオープンになったときは、いづろ通常どおりの IPO ができるようになるのでしょうか。

A1:

(Govil) 私たちはマーケットタイミング戦略を取らず、資金化は投資活動同様投資サイクルの中で継続して行っています。SVF 編スライド 7 ページの通り、ファンドの存続期間は Vision Fund 1 は 12~14 年、Vision Fund 2 は 15 年、そして LatAm は 13~15 年となっています。私たちはファンドの運営を開始してまだ 5 年であり、非常に長い期間が残っているということになります。

また資金化は規律をもって行っています。これまでも平均で投下資本倍率 2 倍で資金化をしています。市場がまだ活発だった 2021 年ころは、比較的高い値段でイグジットしました。例えば Uber などは、現在の価格に比べると高い取引金額でした。私たちは規律ある資金化を継続していくつもりですが、これまでのペースでいけばファンド持続期間が終了するはるか前に資金化が終わるのではないかと考えています。

Q2:

二つ目は、後藤さんへの質問です。IPO 市場が回復してくることで、今後自社株買いなどを検討されますか。

A2:

(後藤) IPO 市場が少しずつ回復してきていること自体は大変いいことだと思いますし、

Vision Fund のパフォーマンスがより向上する可能性が高まってきます。こうしたことは、われわれのグループの経営にとって非常にプラスの材料になります。一方で、自社株買いの意思決定というのは、会社の状況も一つの検討課題だと思いますがそれだけではなく、もっと大きな視野で株主還元そのものと向き合って、その方向性を決めていくことがより重要だろうと思っています。

質問者 4

ありがとうございました。

質問者 5

Q1:

社債の償還について質問です。ハイブリッド債や永久債のコールは、ファーストコール日に行う予定なのでしょうか。

A1:

(後藤) 現在われわれが発行しておりますハイブリッド債のコールについての質問だと思います。このコールにつきましては投資家の皆さんとお約束済みのおり、期限になりましたらコールを実施いたします。私どもは従来から全く変更なくコール実施に取り組むということを表示してきておりますので、コールするという前提で投資家の皆さんもぜひお考えいただきたいと思います。

Q2:

二つ目は Arm IPO についてです。この資料には入っていませんでしたが、いつぐらいを予定しているのかについて確認をお願いいたします。

A2:

(Thornton) Arm の IPO のタイミングに関しては、金曜日の投資家コールでも少し申し上げましたが、IPO は当初今年度中にと考えていました。ただ、グローバルな経済の状況や金融市場の状況を見て、今年度中というのは難しいだろうという結論に至りました。現在の計画では、準備は進めた上で、IPO のタイミングが来たときに備えるということで進めており、基本的に市場が準備できたところで行いたいと考えています。もちろん水晶玉を持っているわけではありませんので、いつ市場の準備が整うかは分かりませんが、われわれとしては市場が開いたときにはすぐできる準備をしていきたいと考えており、希望としては 2023 年(暦年)中にと考えています。

質問者 6

ありがとうございます。

質問者 7

Q1:

SBG は昔は投資会社だったような気がしますが、今はもう資金調達会社、Vision Fund への資金調達を行う会社になっていて、投資はやっていないという感じに見えます。その Vision Fund は SBIA が運営していて、孫さんも自分の持分がゼロになって、数百社を孫さんが直接関与できる状態でもないと思いますので、だいぶ御社 SBG と SBIA がかなり分れてしまっている感じがします。SBIA のモデル、そして SBG の過去の投資、ビジネスモデルとはちょっと違う投資、戦略投資というよりも分散投資になっていて、Vision Fund、SBIA を SBG と少し切り離していくというのはいかがなのかなと。SBG のビジネスとしては、僕が御社を勉強してちょっと違和感が強い感じがしています。しかも、今、Vision Fund は一時的かもしれないですけど、ロスメイキングなのですよ。

後藤さん、SBIA は直接後藤さんは管理していなくて、Vision Fund にお金をどんどん供給するので本当に安心していらっしゃるのかどうか。Vision Fund を流動化したり、やはり魅力的なファンドであれば、外部投資家、サードパーティも少し入れるとか、IPO をするとか流動化して、御社も少しリスクヘッジしていくべきなのではないかと思っています。今の Vision Fund は、昔の SBG とはイコールではないように思えていまして、しかもこの状態をずっと続けるというのは不安を感じるころがあるのですが、Vision Fund に対する SBG の姿勢というのは何かこれから変化はあるのでしょうか。

A1:

(後藤) SBG にとって Vision Fund は最重要の投資部門です。そこがわれわれと何か離れてしまっているとおっしゃっている部分は、われわれの説明が不十分なのだろうということで反省いたしますけども、われわれにとっては Vision Fund は変わらず最重要の投資部門です。特に Vision Fund 1 は既に投資期間を終えておりますので、今 Vision Fund 2 を運営しています。こちらの投資家は私どもと一部孫さん個人ということで、ほぼ私たちが会社として運営している投資ビークルになり、われわれは長期の投資運営をしながら、最大限のリターンを求めていきます。Vision Fund 1 も含めて 470 社近い投資先、有望な投資先を持っているファンドですので、しっかりとここに関与して結果を出していきたいと考えています。ただ、気を付けなければいけないのは、ファンドとしての独立性で、われわれは常に並行して考えていかなければいけない問題です。そういったところに十分留意する一方で、グループとしては、当然連結子会社としてのファンドでもあります。われわれのスタンスはいささかも変更はありません。

質問者 7

分かりました。でも、今までのモデルと全く違うモデルになっていると思うのですけれども、資金調達をするだけの会社になっているように見えて、SBIA と SBG はつながっている部分はあると思いますけれど、もう少しファンドである以上 IPO だったり、外部投資家を入れるとか、御社が自分のバランスシートでやっているのとはほぼイコールにやはり見えてしまうので、これをずっとこのまま 10 年、20 年続けられるのかどうか、御社のビジネスモデルとしてふさわしいのか疑問に思ったので、質問させていただきました。ありがとうございます。

(後藤) われわれがほぼ 100% で運営していることそのものが、われわれが投資会社である

ことに他ならないと考えております。SBG は資金調達だけをやっている金融会社のつもりでは全くありません。私どもの会社のグループとしての投資会社的な側面を幅広くぜひご理解いただければなと思っております。よろしくお願いいたします。

質問者 7

ありがとうございます。

質問者 8

Q1:

アリババについてなのですけれども、持分法が外れたということで、次はどこまで行くのかという話なのですが、今のアリババとの関係を維持するために株式を持つ必要があるのかどうか。それとも市場環境なり様々な環境の下で、極論すればゼロまで下げてもアリババとの関係は変わらないのかという、アリババ株式の持つところの今後の考え方についてお教えてください。

A1:

(後藤) アリババと弊社の非常に友好的な歴史と現在の友好的なお互いの関係は、いささかも変化はありませんし、何かこの関係と株式の保有について、具体的な株主としてのアグリーメントがあるとか、そういう問題は全く別だと思えます。何かアリババとの関係があるがゆえに、取引が縛られているようなことは、今のところはございません。

質問者 8

極論すれば保有がゼロとなるまで、淡々と今までのようなアクションを起こし得るということでしょうか。

(後藤) そういう数字的な答え方をすると市場に影響を与えるといけませんので、コメントは避けます。

質問者 8

すみません。ありがとうございます。

免責事項

本資料は、ソフトバンクグループ株式会社(以下「SBG」)及びその子会社(Arm Limited を含み、以下 SBG と併せて「当社」)並びに関連会社(以下当社と併せて「当社グループ」)に関する関連情報を提供するものであり、すべての法域において、いかなる証券の購入又は応募の申込みを含む、いかなる投資勧誘を構成又は形成するものではありません。

本資料には、当社グループの推定、予測、目標及び計画を含む当社グループの将来の事業、将来のポジション及び業績に関する記述など当社グループの将来の見通しに関する記述、見解又は意見が含まれています。将来の見通しに関する記述には、特段の限定を付すことなく、「目標とする」、「計画する」、「確信する」、「希望する」、「継続する」、「期待する」、「目的とする」、「意図する」、「だろう」、「かもしれない」、「であるべきである」、「したであろう」、「できた」、「予想する」、「推定する」、「企図する」若しくは類似する内容の用語若しくは言い回し又はその否定形などが含まれています。本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、当社グループが本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた、当社グループの現在の前提及び見解に基づくものです。これら将来の見通しに関する記述は、当社グループのメンバー又はその経営陣による将来の業績を保証するものではなく、当社グループのビジネスモデルの成功、当社グループの資金調達力及びその資金調達条件の影響、SBG の重要な経営陣に関するリスク、当社グループの投資活動に関する又はこれに影響を与えるリスク、SB ファンド(下記で別途定義)並びにその投資、投資家及び投資先に関するリスク、ソフトバンク株式会社及びその事業の成功に関するリスク、法令・規制・制度などに関するリスク、知的財産権に関するリスク、並びに訴訟を含むこれらに限られない既知及び未知のリスク、不確実性その他要因を含み、これらの要因により、実際の当社グループの実績、業績、成果又は財務状態は、将来の見通しに関する記述において明示又は黙示されている将来の実績、業績、成果又は財務状態と著しく異なる可能性があります。当社グループの実績、業績、成果又は財務状態に影響を与える可能性のあるこれら及びその他の要因については、SBG のホームページの「事業等のリスク」(https://group.softbank/ir/investors/management_policy/risk_factor)をご参照下さい。当社グループ及びその経営陣は、これら将来の見通しに関する記述に明示されている予想が正しいものであることを保証するものではなく、実績、業績、成果又は財務状態は、予想と著しく異なる可能性があります。本資料を閲覧する者は、将来の見通しに関する記述に過度に依拠してはなりません。当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記述その他当社が行う将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。過去の業績は、将来の実績を示すものではなく、本資料に記載される当社グループの実績は、当社グループの将来の実績の予測若しくは予想の指標となるものではなく、又はこれを推定するものでもありません。本資料に記載されている当社グループ以外の企業(SB ファンドの投資先を含みますが、これに限られません。)に関わる情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、情報の正確性又は完全性について保証するものではありません。本資料には、Arm Limited に関する記述が含まれています。これらの記述は、SBG の株主への情報提供のみを目的としたものであり、Arm Limited が発行するあらゆる有価証券の販売又は購入の勧誘を目的としたものではありませんし、そのように解釈されるべきではありません。

商標について

本資料に記載されている企業、製品及びサービスの名称は、各企業の商標又は登録商標です。

重要なお知らせ—SBG の普通株式の取引、スポンサーなし ADR(米国預託証券)に関する免責事項

SBG の普通株式の売買を希望する場合には、当該普通株式が上場され、主に取引が行われている東京証券取引所において売買を行うことを推奨します。SBG の開示は、スポンサーなし ADR(以下「ADR」)の取引の促進を意図するものではなく、ADR の取引判断を行う際にこれに依拠すべきではありません。SBG は、SBG の普通株式に関するスポンサーなし ADR プログラムの設立又はそれに基づき発行される ADR の発行若しくは取引について、過去及び現在において、参加、支援、推奨その他同意を行ったことはありません。SBG は、ADR 保有者、銀行又は預託機関に対して、(i)SBG が 1934 年米国証券取引所法(以下「証券取引所法」)で定めるところの報告義務を負うこと、又は、(ii)SBG のホームページに、SBG が証券取引所法第 12g3-2(b)に従って証券取引所法に基づく SBG の普通株式の登録の免除を維持するために必要な全ての情報が継続的に掲載されることを表明するものではなく、また、当該者又は機関は、そのように信じてはなりません。適用ある法が許容する最大限の範囲において、SBG 及び当社グループは、SBG の普通株式を表象するスポンサーなし ADR に関連して、ADR 保有者、銀行、預託機関その他企業又は個人に対するいかなる義務又は責任を否認します。上記の免責事項は、ソフトバンク株式会社や Z ホールディングス株式会社などの、スポンサーなし ADR プログラムの対象であるか又は将来対象となる可能性のある当社グループの証券に同様に適用されます。

本資料に記載されるファンド情報に関するお知らせ

本資料は、情報提供を目的として提供されるものであり、法律上、税務上、投資上、会計上その他の助言又は SB Global Advisers Limited(以下「SBGA」)、SB Investment Advisers (UK) Limited(以下「SBIA」)及びそれらの関係会社を含む SBG の子会社(以下併せて「SB ファンド運用会社」)により運用されるいずれかのファンド(文脈に応じて、パラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて「SB ファンド」)のリミテッド・パートナーシップ持分又は同等の有限責任持分の販売の申込み又は申込みの勧誘を行うものではなく、また、いかなる方法でもそのように依拠してはなりません。疑義を避けるために付言すると、SB ファンドは、他のファンド同様、SBIA とその関係会社によって運用されている SoftBank Vision Fund L.P. (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド 1」)、SBGA とその関係会社によって運用されている SoftBank Vision Fund II-2 L.P. (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド 2」)及び SBGA とその関係会社によって運用されている SBIA Latin America Fund LLC (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ラテンアメリカ・ファンド」)を含みます。SB ファンド(ビジョン・ファンド 1 及びビジョン・ファンド 2 並びにラテンアメリカ・ファンドを含む)、SB ファンド運用会社、SB ファンド運用会社により運用される後続又は将来のファンド、SBG 又はそれぞれの関係会社のいずれも、本資料に記載されている情報の正確性又は完全性について、明示又は黙示であるにもかかわらずこれを表明又は保証するものではなく、また、本資料に記載されているパフォーマンスに関する情報は SB ファンドその他本資料に言及される企業の過去若しくは将来のパフォーマンス又は SB ファンド運用会社により運用される後続ファンド、将来組成されるファンドの将来のパフォーマンスについての確約又は表明として依拠してはなりません。SB ファンドその他本資料に言及される企業のパフォーマンスに関する情報は、背景説明のみを目的として記載されるものであり、関連する SB ファンド、本資料に言及されるその他のファンド又は SB ファンド運用会社により将来運用されるファンドの将来のパフォーマンスを示すものとして考慮されるべきではありません。SB ファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、それに含まれる範囲において、関連する SB ファンド運用会社の投資プロセス及び運用方針を説明することのみを目的として述べられたものであり、特定の投資対象又は証券の推奨として解釈してはなりません。SB ファンドのパフォーマンスは各個別の投資においてそれぞれ異なる可能性があり、個別に言及した取引のパフォーマンスは、必ずしも全ての適用される従前の投資のパフォーマンスを示唆するものではありません。本資料において記載及び説明される特定の投資は、関連する SB ファンド運用会社が行う全ての投資を示すものではなく、本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むと仮定すべきではありません。本資料に記載される SB ファンドのパフォーマンスは、ポートフォリオ投資の未実現の評価額に基づくものです。未実現の投資評価額は、関連する SB ファンド運用会社がそれぞれ特定の投資に関する状況に基づき合理的とみなす前提及び要因(例えば、評価日現在における類似の会社の平均株価収益率その他勘案事項等を含みます。)に基づくものです。しかしながら、未実現の投資評価額が本資料に記載されている金額又は本資料に記載されているリターンを算定するために用いられる金額で実現されるという保証はありません。また、かかる実現に関連する取引費用が未知であるため、当該取引費用は、かかる算定に含まれません。未実現額の見積りは、常に変化する多くの不確定要素の影響を受けます。関連する SB ファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、いくつかの要因がある中で特に、将来の運用実績、処分時の資産価格及び市況、関連する取引費用並びに売却の時期及び方法によって決まるものであり、これらの要因は全て、関連する SB ファンド運用会社の評価の根拠となった前提及び状況と異なる可能性があります。

過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではありません。SB ファンド又は SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドのパフォーマンスは、本資料に示されるパフォーマンス情報よりも大幅に低くなる可能性があります。各 SB ファンド又は関連する SB ファンド運用会社により運用されるいずれか将来のファンドが、本資料に示される実績と同等の実績を達成するという保証はありません。

本資料に記載される第三者のロゴ及びベンダー情報は、説明目的のためにのみ提供されるものです。かかるロゴの記載は、かかる企業又は事業との提携又はその承認を示唆するものではありません。SB ファンド運用会社、SB ファンドのポートフォリオ会社、SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドの将来のポートフォリオ会社、又は SBG が、本資料に記載されるロゴを有する企業又は事業のいずれかと今後業務を行うという保証はありません。

SBGA 及び SBIA は、ビジョン・ファンド 1、ビジョン・ファンド 2 及びラテンアメリカファンドの運用に関して、相互に SBG からそれぞれ別個独立した業務プロセスを採っています。SBGA 又は SBIA によって運用される SB ファンドは、それぞれ SBGA 単独又は SBIA 単独で運用されています。